

「そんなこといってもなおせないよ」(小学校 道徳科)

道徳科学習指導案(人権教育)

1 主題名 「友だちの気持ちを考える」・2年(1時間扱い)

B- (9) 友情、信頼 友達と仲良くし、助け合うこと

2 教材名 「そんなこといってもなおせないよ」(あけぼの 小学校低学年向け 五訂版)

3 主題設定の理由

この時期の子どもたちは、友だちの立場を理解したり、自分とは異なる考えを受け入れたりすることは、まだ難しいことが多い。しかし、学級生活を共にしながら、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を重ねることで、友だちのよさを強く感じられるようになる。この段階では、身近にいる友だちと仲良く活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

2年生になり、友だち同士声をかけ合って遊んだり、一人にいる子、困ったり泣いていたりする子がいると、声をかけたり、教師に知らせて何とかしようしたりする姿が見られるようになってきた。しかし、身体面でハンディを感じている子の気持ちを深く考えずに、からかうような言い方をする姿も見られる。身体面でハンディを感じるような体験が自分にはない場合は、なかなか相手の気持ちを考えるまでには至らないのではないかと推察される。相手がどのような思いでいるのか、なぜそのような思いになるのか等、自分のこととして感じられる支援をすることで、子どもたちに、相手の悲しさや心の痛みを思いやることができる心を育てたいと願い、本主題を設定した。

資料「そんなこといってもなおせないよ」は、目が細いと言われて傷ついた「たくろうさん」の姿を取り上げている。子どもたちが、身体面でハンディを感じている友だちを悲しませたことと似たような場面を扱った資料である。「たくろうさん」は、なぜ悲しい気持ちになるのか等「たくろうさん」の思いを丁寧に考えさせたり、事前に自分の体験を想起する指導をして授業に臨んだりすることを通して、身体面での特徴を言われた方は、それが直せないものであるだけに、深く傷つけてしまうことがあることに気づくことができるようにしたい。また、傷ついた心は、自分の受け止め方や、友だちのやさしい声かけや支えて立ち直ることができるし、人の気持ちを傷つけたことに気づかない友だちに対しては、きちんと自分の気持ちを伝えていくことの大切さにも気づかせたい。

4 人権教育とのかかわり

○相手の気持ちを想像することができる。(技能的側面)

○身体面の特徴は、人によって感じ方が違うことに気づける。(知識的側面)

○自分の気持ちを相手にしっかり伝えることの大切さに気づく。(価値・態度的側面)

5 本時案

(1) 主眼

日頃、あまり深く考えずに、友だちの身体面での特徴や気にしていることを言うことがある子どもたちが、教材「そんなこと いわれても なおせないよ」を読み、たくろうさんの悲しい気持ちを考えることを通して、身体面での特徴を言うことは相手の気持ちを傷つけることにつながることに気づき、友だちの気持ちを考え、仲良く助け合っていこうとする心情を養う。

(2) 人権教育の視点

・「たくろうさん」の次の日の行動をとらえさせることにより、傷つき、深く悲しんでいる気持ちに気づかせる。

(3) 指導上の留意点

・事前に「友だちに言われていやだったこと」のアンケートを取り、言われていやだったことの内容やそのときの気持ちを把握しておく。

(4) 展開

◇人権教育に関わる配慮点

	学習活動	発問・予想される児童の反応	教師の指導	評価の視点	時	備考
導入	1 資料の絵を見て、思ったことを発表する。	○この絵を見て、気づいたことを出してみましょう。 ・悲しい気持ち ・いやな気持ち ・泣きたいような気持ち ・困っているのだと思う。 ・何か困って悩んでいる。	・挿絵1のたくろうさんの表情に注目させ、どんな気持ちで入るのか想像させる。 ◇自分が感じたことを自由に発表できるようにし、お互いに聞き合う姿を認め励ます声かけをする。		5	挿絵1
展開	2 資料を読んで「たくろうさん」や「けんたさん」の行動や気持ちについて考える。 (1) たくろうさんが泣き出してしまったわけを考える。 (2)「みんなは知らないからいいにいいにいい」と言われたときのたくろうさんの気持ちを考える。	学習問題 たくろうさんは、どんな気持ちなのかな。 ○たくろうさんが泣き出してしまったとき、どんな気持ちだったと思いますか。 ・友だちみんなが言ったからいやだったんだ。 ・気にしていたことを笑われたら悲しくなったんだと思う。 ・また、今日も言われると思ったから。 ・みんなが嫌なことを言うと思って悲しかった。 ・自分でも気にしていたことだったから、本当にどうしようもない気持ちになった。 ・自分で気にしていることでも、なおせないことだから悲しくなった。 ・私も、身体のことを言われて嫌だったことがある。 ○「みんなは知らないからいいにいいにいい」とけんたさんに言われた時、たくろうさんはどんなことを思ったでしょう。 ・けんたさんにぼくの気持ちをわかってもらってよかった。 ・みんなはぼくのことをいじわるしたんじゃないかもしれない。 ・ぼくがこんなに悲しくいやな気持ちになったことをみんなにもわかってもらいたい。	・資料を読み、登場人物やその行動を確認し、たくろうさんの気持ちを考える。 ◇たくろうさんの気持ちがわかるかどうか問い、「目がほそい」と言われたことがどれほど傷つくことなのか考えさせていく。 ・周りにいた子の様子(挿絵1)にも目を向けさせ、知らずに人のいやなことをしてしまうことがあることに気づかせる。 ・自分の経験を思い起こさせながら発表させる。 ◇身体のことを言われると深く傷つくことがあることを確認する。 ◇とても悲しい思いをして傷ついたたくろうさんが、最後には、ドッジボールをしたいという気持ちに変わっていることに気づかせ、なぜだろうという気持ちをもたせる。 ・けんたくんの話している言葉の中身に目を向けさせる。		30	資料 挿絵2 挿絵3

お わ り	3 今日の授業 をしてみて思っ たことやこれか らこうしてい きたいというこ とを發表する。	○今日の授業をして、思ったこ とを發表してください。 ・身体のことは、いわれてもな おせないし、言われるとすご くいやだと思った。 ・いやなことを言われたら、「い やだ」と伝えたい。 ・悲しい気持ちでいる友だち には、声をかけたい。 ・自分も人にいやなことを言 ったことがあったので、直した い。	・ どうしてそう思ったかなど、 学習したことを振り返らせな がら、語る時間をとる。 ・ 今までの自分の姿を振り返っ ているものや、これからの意 欲が表れているものを大切に 取り上げるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">相手の気持ちを考えた 言動の大切さやよさにつ いて、自分の体験を重ねて 考えている。</div>	10
-------------	---	---	---	----

6 教材研究

(1) 資料分析と発問の計画

たくろうさん	ことえさん、けんたさ ん、ともだち	価 値	発 問
<ul style="list-style-type: none"> ・にげ出すようにきょうしつに かえりました。 ・つぎの日の休みじかん、ひと りですわっている。 ・下をむいたままで、へんじを しません。 ・きゅうにわーとなき出す。 ・「だってみんながぼくの目を ほそいって言うから…。そん なこといわれても、なおせな いよ。」 ・ゆうきがわいてきた。 ・「そうしてみる。みんなには なしをしていっしょにドッ ジボールをしたいな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たくちゃんて、目 がほそいね。」 ・「わらうと、もっと ほそくなるね。」 ・けんたさんははっと していいました。 ・「ぼくも、『まゆげが ふとい』っていわれ ていやだったこと があったのに、たく ちゃんのことをわ らっちゃった。…み んなはしらないか ら、いいにいこう よ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がないたくろうさ んを心配して声をかけ るけんたさん。 ・自分も体のことを言わ れていやだった体験と 重ねて考えるけんたさ ん。 ・声をかけてもらうこと により、元気を取り戻 したたくろうさん。 	<p>○たくろうさんが、 泣き出してしま ったのはなぜで すか。</p> <p>○たくろうさんが、 またドッジボー ルをしたいと思 ったのは、どうし てですか。</p>

(2) ねらいの達成に寄せた展開の構想

<ねらい>

・体についてのことをいうこと
は、人を傷つけることがあるこ
とがわかる。
・悲しんでいるともだちに声をか
けることの大切さを知る。

<資料の中で最も考えさせたい場面>

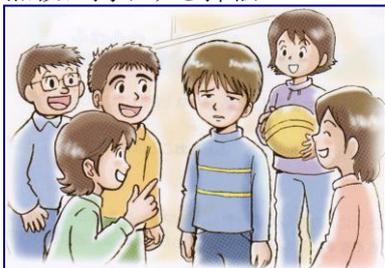
・たくろうさんが泣き出して
しまった場面。
(傷つけるつもりではなか
ったのに友だちを悲しませ
てしまった言葉が原因)

<つけたい力>

体のこと等直せないこ
とを言うことは、深く傷
つける場合があることに
気づき、相手の気持ちを
考えるようにしたいとい
う気持ちをもてる。

(3) 黒板に掲示する挿絵

挿絵 1



挿絵 2



挿絵 3



そんなこと いわれても なおせないよ

たくろうさんは、たいいくかんで たのしく ドッジボールをして あそんで いました。すると ことえさんが、

「たくちゃんて、目が ほそいね。」

と、きゅうに いい出しました。そばにいた ともだちも、

「そうだね。」

「わらうと、もっと ほそく なるね。」

といいました。たくろうさんは、にげ出すように、きょうしつに かえりました。

つぎの 日の 休みじかん、ともだちの けんたさんが、ひとりで すわっている たくろうさんに こえを かけました。

「たくちゃん たいいくかんで ドッジボール やろうよ。」

でも、たくろうさんは、下をむいたままで へんじを しません。

「どうしたの。なにか あったの？」

けんたさんが いうと たくろうさんは、きゅうに わーっと なき出しました。

「だって、みんなが ぼくの 目を ほそいって いうから…。そんなこと いわれても、なおせないよ」

けんたさんは、はっと して いいました。

「ぼくも、『まゆげが ふとい』って いわれて いやだった ことがあったのに、たくちゃんの ことを わらっちゃった。ごめんね。目のことを いわれて いやだった ことを みんなは しらないから、いいにいこうよ。」

たくろうさんは、ゆうきが わいて きました。

「うん、そうしてみる。みんなに はなしを して いっしょに ドッジボールしたいな。」

たくろうさんは、けんたさんと いっしょに きょうしつを とび出して いました。